日科技連

ソフトウェア品質

日科技連
セミナーガイド
2020

- 開発現場のトラブルを減らしたい！
- 品質保証を組織的に確立したい！
- トラブルの真因を追究し、
  再発防止・未然防止を実現したい！
- レビュー、テストを効果的に行いたい！

ご興味のあるセミナーがございましたら、
該当のページをコピーして、関係部署でご回覧ください。

一般財団法人 日本科学技術連盟
品質経営研修センター　ソフトウェア品質（SQiP）担当

品質経営による新しい顧客価値創造とその実現に向け
日科技連では人材育成による組織能力強化のために
様々な活動を展開していきます

ESG（環境・社会・ガバナンス）、ESH（環境、安全・防災、健康）、SDGs（持続可能な開発目標）など、企業経営においては、グローバル社会の一員として、これまでにない様々な新しい価値観が生まれています。また、ビッグデータの時代に入り、多様なデータが容易に手に入れられる環境下において、必要なデータの選定、分析、活用など、統計的手法にも新たな挑戦や役割が求められています。

組織が持続的に成長していく上で、品質経営はこれら新しい顧客価値に対応し、実現していく方法論を兼ね備えたツールとして、活躍の場を広げようとしています。品質経営が強みとする人材育成を通じた組織能力の強化は、今後とりわけ重要となってくるでしょう。

日科技連では、「品質経営懇話会」を通じ、これからの品質経営の方向性として、経営トップの方々と顧客価値創造の実現に向けて議論を進めています。

企業・組織の要となる人材育成に貢献する様々な教育コンテンツをご提供することで、これまで以上に、経営管理技術の普及発展に貢献してまいります。

一般財団法人 日本科学技術連盟

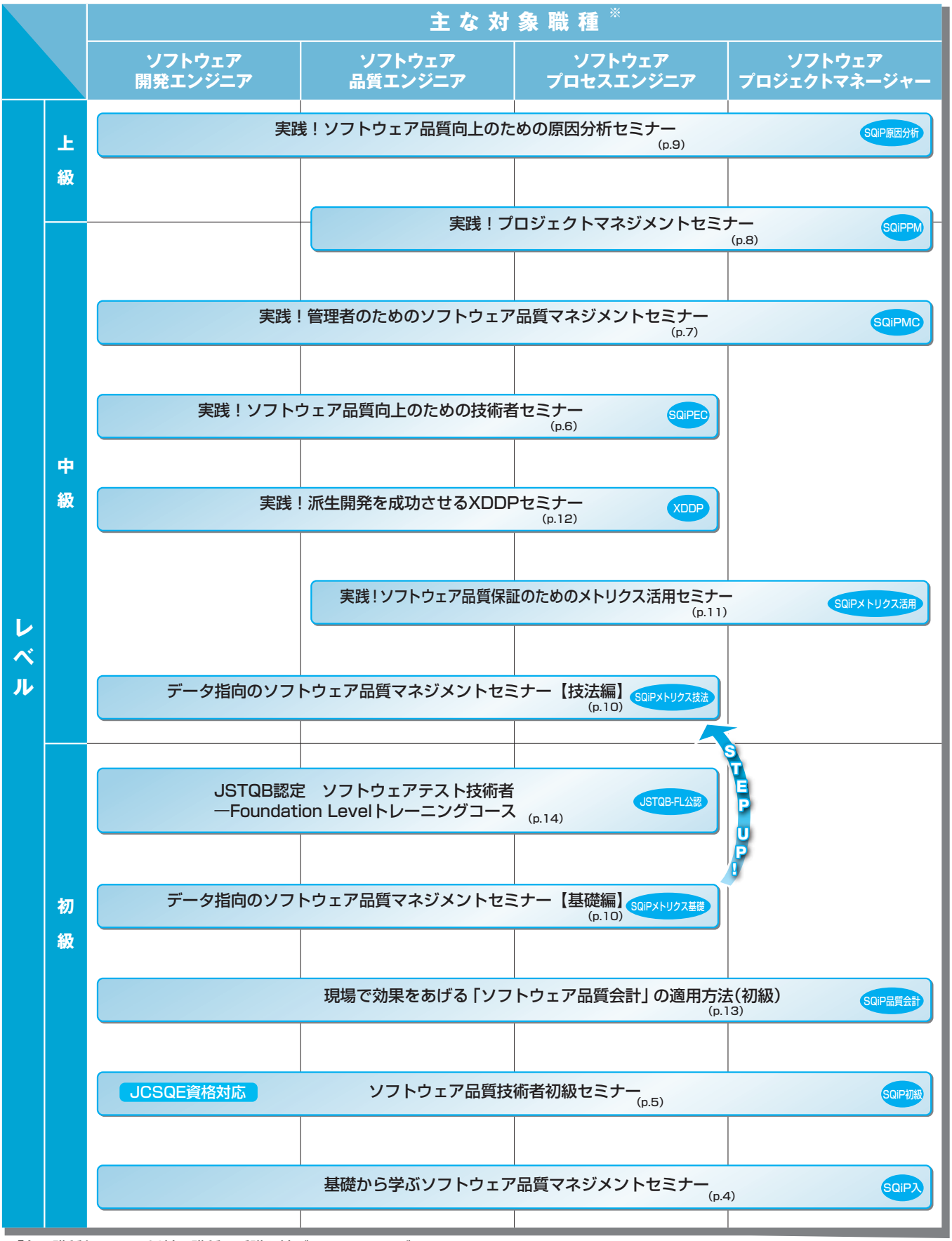
★ PDU 発給対象コース・イベント一覧

一般財団法人 日本科学技術連盟は、プロジェクトマネジメント協会（PMI®）の公認教育プロバイダー（R.E.P）に認定されています。
セミナーを修了され、申請をいただいた方に、Activity、numberなどをお知らせいたします。
教育分野（EDUCATION）Course or Training から申請してください。
※同一セミナーを複数回受講された場合、2度目以降のPDUの申請はできません。

コース名	PDU values			
	Technical	Leadership	Strategic	Total
基礎から学ぶソフトウェア品質マネジメントセミナー	5.75	0.00	0.00	**5.75**
ソフトウェア品質技術者初級セミナー	13.75	0.00	0.00	**13.75**
データ指向のソフトウェア品質マネジメントセミナー（基礎編）	6.50	0.00	0.00	**6.50**
データ指向のソフトウェア品質マネジメントセミナー（技法編）	14.00	0.00	0.00	**14.00**
実践！ソフトウェア品質向上のための技術者セミナー	39.00	0.00	0.00	**39.00**
実践！管理者のためのソフトウェア品質マネジメントセミナー	9.00	3.50	0.00	**12.50**
実践！プロジェクトマネジメントセミナー	11.25	1.75	0.00	**13.00**
実践！ソフトウェア品質向上のための原因分析セミナー	12.25	0.00	0.00	**12.25**
実践！ソフトウェア品質保証のためのメトリクス活用セミナー	13.00	0.00	0.00	**13.00**
実践！派生開発を成功させる XDDP セミナー	13.00	0.00	0.00	**13.00**
JSTQB 認定 ソフトウェアテスト技術者 ー Foundation Level トレーニングコース	19.25	0.00	0.00	**19.25**
【e ラーニング】ソフトウェア品質技術者初級セミナー	5.50	0.00	0.00	**5.50**

※ 2020 年度セミナー、シンポジウムは PDU 発給対象として申請中です。
※ソフトウェア品質シンポジウムでの発給につきましては、https://www.juse.jp/sqip/symposium/ をご確認ください。
PMP®、Project Management Professional®、PMI®、PMBOK® ガイドは、米国 PMI®（Project Management Institute）のアメリカその他の国における登録商標です。
本文中で ® は明記していません。
詳細・最新情報については、サイトよりご確認ください。 >>> http://www.juse.or.jp/sqip/seminar/pdu_course/

セミナー受講マップ



※「主な職種」は、これ以外の職種の受講を妨げるものではございません。
※参加費は税抜価格です。
※掲載内容は2019年12月2日現在のものです。
※日程、カリキュラム、会場等は、諸事情により変更する場合があります。
※万一、最低開催人数に満たない場合は、セミナーを中止または延期することがあります。
※最新情報はSQiPポータルサイトからご覧ください。http://www.juse.or.jp/sqip/

2020年度　日科技連　ソフトウェア品質　事業日程表

セミナー

名称	頁	日数	開催場所	参加費 *1 一般	参加費 *1 会員	2020年4月	2020年5月
基礎から学ぶソフトウェア品質マネジメントセミナー	4	1日	東京	10,000円	10,000円		18日（月）
ソフトウェア品質技術者初級セミナー	5	2日	東京	67,000円	60,000円		27日（水）～28日（木）
実践！ソフトウェア品質向上のための技術者セミナー	6	6日	東京	125,000円	110,000円		
実践！管理者のためのソフトウェア品質マネジメントセミナー	7	2日	東京	55,000円	48,000円		
実践！プロジェクトマネジメントセミナー	8	2日	東京	49,000円	42,000円		
実践！ソフトウェア品質向上のための原因分析セミナー	9	2日	東京	49,000円	42,000円		
データ指向のソフトウェア品質マネジメントセミナー（基礎編）	10	1日	東京	30,000円	25,000円		
データ指向のソフトウェア品質マネジメントセミナー（技法編）	10	2日	東京	57,000円	50,000円		
データ指向のソフトウェア品質マネジメントセミナー（基礎編・技法編）	10	3日	東京	77,250円	68,250円		
実践！ソフトウェア品質保証のためのメトリクス活用セミナー	11	2日	東京	53,000円	46,000円		
実践！派生開発を成功させるXDDPセミナー	12	2日	東京	57,000円	50,000円		
現場で効果をあげる「ソフトウェア品質会計」の適用方法（初級）*2	13	1日	東京	40,000円（予価）	40,000円（予価）		
JSTQB認定ソフトウェアテスト技術者-Foundation Levelトレーニングコース	14	3日	東京	100,000円	95,000円		12日（火）～14日（木）

研究会

名称	頁	日数	開催場所	参加費 *1 一般	参加費 *1 会員	2020年4月	2020年5月
ソフトウェア品質管理研究会（第36年度）	18	9回	東京	210,000円	190,000円	24日（金）	22日（金）

シンポジウム

名称	頁	日数	開催場所	参加費 *1 一般	参加費 *1 会員	2020年4月	2020年5月
ソフトウェア品質シンポジウム2020 *3	18	3日	東京	38,000円	36,000円		

資格試験

名称	頁	日数	開催場所	参加費 *1 一般	参加費 *1 会員	2020年4月	2020年5月
ソフトウェア品質技術者資格試験（初級）	17	－	東京・名古屋・大阪・福岡 他	10,000円	－		
ソフトウェア品質技術者資格試験（中級）	17	－	東京・大阪 他	15,000円	－		

名称	頁	日数	開催場所	参加費 *1 一般	参加費 *1 会員	2020年4月	2020年5月
JSTQB認定テスト技術者資格 Foundation Level 試験 *4	15	－	東京・名古屋・大阪・福岡 他	20,000円	－		
JSTQB認定テスト技術者資格 Advanced Level 試験 *4	15	－	東京・大阪 他	20,000円	－		

※上記の日程は、2019年12月2日現在のものです。予告なく変更される場合がありますので、ご注意ください。
※開催日程、会場、カリキュラム、講師、参加費などは都合により変更する場合がございます。最新情報は日科技連Webサイト（http://www.juse.or.jp/）でご確認ください。
*1　参加費は税抜価格です。
　ソフトウェア品質管理研究会は、継続参加企業様の特典（サポート価格）をご用意しています。 200,000円（一般）／180,000円（会員）　＊税抜き

（一財）日本科学技術連盟
TEL：03-5378-9813／E-mail：sqip@juse.or.jp

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021年 1月	2月
			25日（金）				25日（月）	
	9日（木） ～10日（金）			13日（火） ～14日（水）				4日（木） ～5日（金）
				前期： 21日（水） ～23日（金）	後期： 25日（水） ～27日（金）			
17日（水） ～18日（木）								
3日（水） ～4日（木）								
15日（月） ～16日（火）					9日（月） ～10日（火）			
22日（月）								
23日（火） ～24日（水）								
22日（月） ～24日（水）								
	16日（木） ～17日（金）						18日（月） ～19日（火）	
	14日（火） ～15日（水）						28日（木） ～29日（金）	
				日程は決まり次第、Webサイトへ掲載します。（全2回開催予定）				
					17日（火） ～19日（木）			

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021年 1月	2月
25日（木） ～26日（金）			10日（木） ～11日（金）	16日（金）	13日（金）	11日（金）	8日（金）	26日（金）

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021年 1月	2月
			9日（水） ～11日（金）					

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021年 1月	2月
13日（土）					14日（土）			
					14日（土）			

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2020年 1月	2月
				日程は決まり次第、Webサイトへ掲載します。（全2回開催予定）				
				日程は決まり次第、Webサイトへ掲載します。（全1回開催予定）				

*2 本コースは、日本科学技術連盟とNECマネジメントパートナー㈱との共催事業となり、当財団の通常研修とは異なります。詳細はWebサイトでご確認ください。

*3 ソフトウェア品質シンポジウムの併設チュートリアル（9日）は別途参加費10,000円（本会議参加の場合は5,000円）です。 ＊税抜き

*4 日本科学技術連盟は、JSTQB認定テスト技術者資格の主催団体であるJSTQBとパートナーシップを結んでおり、試験の実施組織となっています。

～品質意識向上に役立つ入門コース！　品質の基礎学習に最適～

（略称）SQiP入

基礎から学ぶ ソフトウェア品質マネジメントセミナー

PDU対象コース
5.75PDU
※表紙2★参照

当セミナーは、ソフトウェア品質マネジメントについて、「言葉の定義の理解」、「基本的な考え方」、「現実的なマネジメント方法」といった基礎的なノウハウをわかりやすく学ぶことができます。ソフトウェア品質向上に役立つ教育も体系的に紹介しますので、教育派遣担当者の方にも参加をおすすめいたします。

コースの特色

- ソフトウェア品質マネジメントの基礎を理解できます。
- 国際標準（ISO、PMBOK®など）の紹介も含め、最新の動向を知ることができます。
- 情報サービス業界各社で実際に使用されているプロセスを通して品質管理のノウハウを学ぶことができます。

こんな方におすすめします

- あらゆる分野でソフトウェアの開発・生産に従事している技術者・管理者の方
- これからソフトウェア品質マネジメントに携わる方、もう一度基礎から品質マネジメントを習得したい方
- 教育派遣担当者の方

参加者の声

- 入門コースということもあり、ソフトウェア開発に必要な基礎知識を習得することができた。
- テキストの説明と同時に他社事例の説明などもあったので、項目ごとに理解することができて良かった。
- ベンダー側の品質管理に対する意識や管理方法について理解することができた。
- ソフトウェアの品質もハードウェアの品質も基本は同じであることが理解できた。

カリキュラム　1日

時　間	科　　目
9:30～12:00	1．ソフトウェア開発プロジェクトの成功とは 2．品質とは 3．マネジメントとは 4．ソフトウェア開発の特徴 ・ソフトウェアの特徴と対処策 ・ソフトウェア品質の基礎知識 ・ソフトウェア開発の各工程での品質
13:00～17:00	5．プロジェクトマネージャは何をすべきか 6．全社的品質管理体制 7．知っておいてほしい品質関連の標準知識 8．ソフトウェア品質向上に役立つ教育のご案内

回数	開　催　日
1	2020年　5月18日(月)
2	9月25日(金)
3	2021年　1月25日(月)

会　場　日科技連・東高円寺ビル
講　師　香村　求　（㈱システムSWAT）
参加費　10,000円（一般／会員）＊税抜き

～本セミナーオリジナル「ソフトウェア品質改善のテキスト」で
教育効果が倍増！～

（略称）SQiP初級

ソフトウェア品質技術者初級セミナー

－「ソフトウェア品質技術者資格認定制度（JCSQE）」対応－

JCSQE JUSE Certified Software Quality Engineer

PDU対象コース 13.75PDU ※表紙2★参照

当セミナーでは、『ソフトウェア品質知識体系ガイド（SQuBOK Guide）』(p.20参照) に基づいたソフトウェア品質技術を体系的に、短期間で効率的に解説します。また、「レビュー技法→テスト技法→ソフトウェアメトリクス→再発防止」の一連の流れでグループ演習をし、「品質改善」の実践力を身につけることができます。

コースの特色

- ソフトウェア品質技術を体系的に、短期間で効率的に学べます。
- 「欠陥除去と作り込み防止」に重点を置いて解説します。
- 各科目とも、講義のあとに続いて、現場に即した演習を行います。

こんな方におすすめします

- ソフトウェア品質に関わるすべての技術者
- プロジェクトの一員として開発業務や品質管理業務などを担当したことのある方
- 技術者・管理者・品質保証担当として次のステップを目指す方

※「ソフトウェア品質知識体系ガイド－SQuBOKGuide－」を、少なくとも1回は読んだことがある程度の知識があると、より教育効果が高まります。

※「ソフトウェア品質技術者資格試験」(JCSQE) とは

2008年12月に設けられたソフトウェア品質技術者資格制度（JUSE Certified Software Quality Engineer）は、「**すべてのソフトウェア技術者に品質技術を！**」をコンセプトに初級、中級、上級の３段階の資格で構成しています。初級資格試験は、今まで22回実施しており、受験者数は延べ約9,000名、合格者は3,500名を超えました。

※詳細は17ページをご参照ください。

参加者の声

- これまで現場で行っていたバグの原因分析は“悪い例”であり、本質的な原因分析の必要性を実感することができ、非常に有益であった。
- 講義→演習という流れが、理解を深めるためには一番効率のよい方法であると実感、実りある時間を過ごすことができた。

カリキュラム　2日間

	時　間	科　　目	主　要　内　容
1日目	9:30 ～ 10:45	ソフトウェア品質マネジメント概論	品質の重要性、品質の考え方、品質のマネジメント
	10:55 ～ 14:40	レビュー技法	レビューの概要、観点別レビュー、インスペクション、レビューでの指摘事項、レビューのマネジメント、グループ演習
	14:50 ～ 17:45	ソフトウェアメトリクス	メトリクスの必要性、定量的管理の意義、プロセス・プロダクトメトリクス、テスト進捗管理、グループ演習
2日目	9:30 ～ 12:25	テスト技法	テストの概要、テストケース設計、主要なテスト技法、テスト技法の選択と組み合わせ、テストケース作成の演習
	13:25 ～ 17:30	再発防止	再発防止活動の意義、バグ原因分析とフィードバック、再発防止、グループ演習（バグの連関図作成）

回数	日　　程
1	2020年　5月27日(水)～28日(木)
2	7月　9日(木)～10日(金)
3	10月13日(火)～14日(水)
4	2021年　2月　4日(木)～　5日(金)

本コースは「e-ラーニング（PDU対象コース）」でも学習できます。(1ユーザー：20,000円＊税抜き)
詳しくは16ページをご参照ください。

会　場　日科技連・東高円寺ビル
講　師　小笠原秀人（千葉工業大学）
小池　利和（ヤマハ㈱）
香村　求　（㈱システムSWAT）
鈴木三紀夫（ASTER）
辰巳　敬三（(一財)日科技連 嘱託、元 富士通㈱）
野中　誠　（東洋大学）
長谷川　聡（㈱ベリサーブ）
堀田　文明（㈲デバッグ工学研究所）
誉田　直美（日本電気㈱）
真野　俊樹（SQA総合研究所）
をはじめ、ソフトウェア品質に関して経験豊富な実務家・専門家が指導にあたります。
参加費　67,000円（一般）／60,000円（会員）＊税抜き

～ソフトウェア品質技術を確実に身につけたい方におすすめ！～

（略称）SQiPEC

実践！ソフトウェア品質向上のための技術者セミナー

PDU対象コース
39.00PDU
※表紙2★参照

演習を中心とした参加型のセミナーです。ソフトウェアを開発するうえで、ソフトウェア開発技術、プロジェクト管理技術、品質管理技術など、様々な技術が必要となります。また、ソフトウェア開発における、QCD（Quality：品質、Cost：コスト、Delivery：納期）を維持し、改善するために、プロジェクトや組織単位で、継続的に改善活動を実施することも大切です。

当セミナーでは、ソフトウェアを開発するうえで必要となる基本的な開発技術や管理技術を、演習やディスカッションを交えながら体系的、実践的に習得できます。

コースの特色

- ソフトウェア開発技術や品質マネジメント技術の基本的な考え方、手法の本質的意義、技術者に求められるマインドなど、ソフトウェア品質の“哲学”を学ぶことができます。
- ソフトウェア品質管理／品質保証の考え方および品質改善の方法を学べます。
- 要求開発から検査までの各工程におけるソフトウェア開発技術について学び、演習によりそれらの具体的な活用方法を習得できます。
- 理論だけでなく、実践的事例を盛り込んだテキストを使用します。
- グループ演習では、他の受講者とのコミュニケーションによる「新たな気づき」を得られます。

こんな方におすすめします

- あらゆる分野でのソフトウェアの開発・生産に従事している技術者、プロジェクトリーダー、SEの方
- ソフトウェア設計・開発をひととおり経験し、今後、さらに高いレベルを目指す方

参加者の声

- 不具合を上流工程でつぶすことがコスト削減のための近道だということを学んだ。
- 品質保証の担当でも「設計の補講」というフォローがあり、設計開発について非常に理解が深まった。

カリキュラム　6日間

		時　間	科　　目	主　要　内　容
前期	1日目	9:30 ～ 17:00	ソフトウェア品質保証の基本	社会におけるソフトウェアの位置づけ・役割、ソフトウェアの品質と品質保証、品質阻害の要因、ソフトウェア品質保証のポイント、ソフトウェア開発プロセス、品質保証技術の向上、コミュニケーションの改善
	2日目		レビュー技法	レビュー技法の概要、アドホックレビュー・インスペクションの目的と進め方、レビューでの指摘事項、レビューのマネジメント、レビューの実践・研究事例
	3日目		ソフトウェア要求	要求定義とシステム開発（要求の種類と機能の獲得他） 要求定義とヒューマン・コミュニケーション（コミュニケーション、プロトコル、伝わるドキュメント）、要求定義とモデリング（モデルの対象、モデルの要求）
後期	4日目	9:30 ～ 17:00	品質を追求した設計	設計の基本、設計と品質、システムアーキテクチャと品質、設計の原則（オブジェクト指向設計）、モデリングとモデルレビュー手法、テスト駆動開発
	5日目		品質向上のためのソフトウェアテスト	テストの役割と全体像、テスト設計と実行の技術、テスト計画、テストマネジメント、テスト結果分析・報告
	6日目		開発プロセスの改善	問題意識、プロセス改善活動の進め方、測定と分析

回数		開　催　日
1	前期	10月21日(水)～23日(金)
	後期	11月25日(水)～27日(金)

オプション（追加費用不要）

オブジェクト指向設計に不慣れな方を主な対象に「補講」を実施する予定です。設計の基礎知識を、より詳しく習得できます。

会　場　日科技連・東高円寺ビル

講　師　板倉　稔　（㈱イネーブル・ツリー）
小井土　亨（㈱OSK）
小池　利和（ヤマハ㈱）
阪本　太志（東芝デベロップメントエンジニアリング㈱）
真野　俊樹（SQA総合研究所）
湯本　剛　（㈱ytte Lab）

参加費　125,000円（一般）／110,000円（会員）＊税抜き

～一流のマネジメントスキルを学ぶ！～

（略称）SQiPMC

実践！管理者のためのソフトウェア品質マネジメントセミナー

PDU対象コース
12.50PDU
※表紙2★参照

品質は経営において2つの意味で重要です。
①経営の目的は製品・サービスを通した顧客価値提供にあり、品質はその提供価値に対する顧客の評価であること。
②品質のためのマネジメントの思想と方法論は、一般的な目的達成のために広く通用する優れた方法論であること。
当セミナーでは、短期間で管理者として必要なソフトウェアの品質マネジメントの基本的考え方や、プロジェクトマネジメントの進め方について学ぶことができます。

コースの特色

- ソフトウェア分野における“顧客価値提供マネジメント”の基本的考え方と方法論を学ぶことができます。
- 管理者として必須の、プロジェクトマネジメントについて、その役割や進め方を理解することができます。
- 管理者が持つべき基本的なマネジメント能力を、問題解決法の考察を通して習得します。

こんな方におすすめします

- 各分野においてソフトウェア開発に従事している部門の管理者（部課長クラス）およびプロジェクトリーダー

参加者の声

- ソフトウェア分野における品質マネジメントの意味、意義、全貌を理解することができた。品質というより、マネジメント一般の非常に質の高い整理された講義を聴くことができた。
- プロジェクトマネジメントの全貌と勘所が分かった。もっと詳しく勉強してみようと思う。特にWBS、リスク対応は重要であると感じた。
- マネジメント力とは、実は問題解決力と言ってよいのではないかと思った。問題解決力があるということは良い計画を作ることができることにほかならないことを実感した。

カリキュラム　2日間

	時　間	科　　目	主　要　内　容
1日目	9:30～12:30	ソフトウェアの品質マネジメント	ソフトウェア開発の難しさ ソフトウェアへのTQMの適用 TQMに学ぶ品質中心思想 TQMに学ぶソフトウェア開発プロセス管理 TQMに学ぶ全員参加の改善 ソフトウェアへの品質アプローチ ソフトウェア産業競争戦略 競争優位のための品質経営
	13:30～17:00	管理者としてのプロジェクトマネジメントの進め方	プロジェクト管理の考え方、原則、手順 実践的なプロジェクト管理のポイント リスクマネジメントとコンテンジェンシープラン PMBOKをベースとしたプロジェクトマネジメント手法
2日目	9:00～16:30	管理者としての問題発見力向上 一流の管理者になるために必須のマネジメント能力	問題の種類 事例研究 TQMに学ぶ問題発見技術 リスク兆候の監視や自己評価指針を用いた方法 プロセスアプローチに基づく問題発見の方法 過去と類似している問題を早期に発見する方法 診断技術

回数	日　　程
1	6月17日(水)～18日(木)

会　場　日科技連・東高円寺ビル
講　師　金子　龍三（元 日本電気㈱）
　　香村　求　（㈱システムSWAT）
　　奈良　隆正（NARAコンサルティング）
参加費　55,000円（一般）／48,000円（会員）＊税抜き

～PMエキスパート直伝！～

（略称）SQiPPM

実践！プロジェクトマネジメントセミナー

PDU対象コース
13.00PDU
※表紙2★参照

プロジェクトのマネジメントは具体的にどうすればいいのだろうかとお悩みの方、これからプロジェクトマネジメントをおこなう方、プロジェクトリーダーを体験したがうまくできなかったという方へ、ぜひおすすめいたします。

コースの特色

- 実例を中心に、より実践的にプロジェクトマネジメントを学ぶことができます。
- プロジェクト計画の策定、実施についてのノウハウを実務レベルで学ぶことができます。
- ソフトウェア開発のプロジェクトマネジメントについても事例を交えながら学ぶことができます。
- プロジェクトを成功させたいリーダー必見です。

こんな方におすすめします

- プロジェクトリーダーまたはプロジェクトリーダーを目指す方、プロジェクトリーダーの立場でお困りの方

参加者の声

- 各講師の体験談に基づいた講義だったのでわかりやすかった。
- プロジェクトマネジメントの重要性について理解を深めることができた。
- プロジェクトリーダーになって行き詰まっていたので、道が開けたように感じた。

カリキュラム　2日間

	時　間	科　　目
1日目	9:20～12:00	オリエンテーション 国際動向について 現実のプロジェクトマネジメント－失敗事例を中心とした課題の提起－
	13:00～15:00	プロジェクト計画の策定
	15:15～17:15	実践的管理の方法
2日目	9:15～11:00	プロジェクトのヒューマンファクター －人的資源／コミュニケーション・マネジメント－ プロジェクトリーダーの育成
	11:15～12:30	CCPM入門（クリティカルチェーンプロジェクトマネジメント管理）
	13:30～14:15	組み込みプロジェクトマネジメント 小規模プロジェクトのマネジメント事例
	14:15～15:00	ITプロジェクトマネジメントの事例
	15:00～15:30	プロジェクトマネジメント　まとめ
	15:45～17:15	総合質疑

回数	開　催　日
1	6月3日(水)～4日(木)

会　場　日科技連・東高円寺ビル
講　師　岡村　孝彦（㈱NTTデータアイ）
　　金子　龍三（元 日本電気㈱）
　　香村　求　（㈱システムSWAT）
参加費　49,000円（一般）／42,000円（会員）＊税抜き

～一歩先を行く原因分析と教訓の整理を学ぶ!～

（略称）SQiP原因分析

実践!ソフトウェア品質向上のための原因分析セミナー

PDU対象コース
12.25PDU
※表紙2★参照

本セミナーでは、ソフトウェア、ハードウェアという区分ではなく、担当業務によって適した原因分析方法が異なることを注意喚起し、原因分析技術の使い分けについて説明します。

原因分析技術の基礎・基本から、障害発生など過去の体験をもとにケーススタディを行い、「技術的視点」と「マネジメント視点」の2つの視点から再発防止策・未然防止策を探ることができます。

今まで知らなかった手法や技法はもちろん、これまでとは違った視点で、問題追究や原因分析の知見を得ることができます。

コースの特色

- 分析する対象とその特徴、それに適した原因分析技術の種類（トラブルシューティング、なぜなぜ分析、プロセスネットワーク法（PNA法））と要点について説明します。
- 原因分析の基礎として、組織の知的財産の重要性、その蓄積と活用例について説明します。
- 学んだ手法をもとに個人演習、ケーススタディ（GD）を行い、原因分析技術を習得します。
- 原因分析技術をどのような場面で活用するかについて、議論、討論を行い、これからの業務に活かせるようになります。

こんな方におすすめします

- 様々な原因分析手法の使い方にお困りの方
- ソフトウェアならではの原因分析の進め方を学びたい方
- 各分野におけるソフトウェア開発、システム開発の実務者、管理者レベルの方
- 品質保証部門のリーダークラスの方

参加者の声

- プロセスを書き出してからという考え方、整理の仕方によりもれなく検討できる点がとても参考になった。
- トラブルシューティング、なぜなぜ分析、PNA法と様々な手法を学ぶことができたので、自身のプロジェクトに活かしていきたい。
- 「知識の構造化」「知識の再利用」について、新しいひらめきがあった。これまでの考え方が180度変化したような気がする。

カリキュラム　2日間

	時　間	科　　目	主要内容
1日目	9:30～12:00	原因分析の基本	対象とその特徴 品質分類別原因分析対象領域 原因分析の観点からのソフトウェアの特徴 原因分析のステップ(基本) 分析技法の使い分け
		なぜなぜ問答の技術	トラブルシューティング なぜなぜ分析
	13:00～17:00	プロセスネットワークモデルを用いた原因分析法(PNA法)	プロセスネットワーク分析法の開発経緯 PNA法概要
		PNA事例	PNA法事例～目的達成型行動の場合～ PNA法～定常業務の場合～ PNA法～人の行動間違いの場合～
2日目	9:30～11:40	特別講義	原因分析手法の進め方と原因分析手法の活用
	11:40～12:00	ケーススタディの説明	
	13:00～15:30	ケーススタディ	銀行システムのトラブル事例を題材に、原因分析を行い「技術的視点」と「マネジメント的視点」の2つの視点から再発防止策・未然防止策を考える。
	15:40～16:10	原因分析手法のQ&A	実例研究、質疑応答
	16:10～16:30	実践例を用いてフォローアップセミナーのご紹介	・講師派遣型のオンサイトセミナー ・設計開発における不具合未然防止のための知識活用セミナー(SSM)　など

回数	開　催　日
1	6月15日(月)～16日(火)
2	11月　9日(月)～10日(火)

会　場　日科技連・東高円寺ビル
講　師　金子　龍三（元 日本電気㈱）
　　田村　泰彦（㈱構造化知識研究所）
参加費　49,000円（一般）／42,000円（会員）＊税抜き

～ソフトウェア品質データ分析の技法とノウハウを学ぶ～

（略称）SQiPメトリクス基礎／技法

データ指向のソフトウェア品質マネジメントセミナー（基礎編・技法編）

PDU対象コース
基礎編 6.50PDU
技法編 14.00PDU
※表紙2★参照

すでにソフトウェアメトリクスを収集している組織にとってもこれからという組織にとっても、収集したメトリクスをどのように分析、活用するかは大きな関心事であり、また悩みも多いのではないでしょうか。そして、悩みの原因として多いのが、「適切な分析、活用方法を知らない」書籍などを参考にして分析を試みたものの、「解決したい問題やデータに対してどの手法がマッチしているか分からないため、そこで途方に暮れてしまう」、「試しにやってはみたものの本当に結果が正しいのか自信が持てない。そのため、分析結果からアクションに結び付けられない」など、結果的に何も変わらない、マネジメントに役立っていないというケースをよく耳にします。

当セミナーでは、ソフトウェア開発の分野で実際に適用されているデータ分析技法、品質管理手法などを、統計解析ソフトウェアパッケージ『R』を用いてパソコンによる演習を交えて実践的に学びます。実際の現場でのメトリクスを使用して、ソフトウェア開発で各種手法を適用する際の注意点やノウハウなども解説し、これらの悩みを解決していきます。

技法編テキスト

コースの特色

【基礎編】
- ソフトウェアメトリクスの基礎と理論を体系的に説明します。
- プロダクトとプロセスのメトリクスの両面を取り上げます。
- 単に測る方法だけでなく、その解釈の仕方や、改善のヒントを解説します。
- JCSQE 初級試験のメトリクス関連の内容がよくわかります。

【技法編】
- 「事実に基づく管理」を実践する理由がわかります。
- データという客観的事実を適切に分析し、アクションにつながる分析を行うスキルが身につきます。
- 1人1台パソコンを使用し、演習中心に具体的な分析例を用いて実践的に学べます。
- 書籍『データ指向のソフトウェア品質マネジメント』（野中誠・小池利和・小室睦著 日科技連出版社発行 2013年度日経品質管理文献賞受賞）をテキストとして使用します。

こんな方におすすめします

- ソフトウェアメトリクスを品質マネジメント、プロセス改善開発力向上などに役立てたいと考えている方（ソフトウェア開発技術者、品質管理・保証担当者、プロセス改善担当者など）

カリキュラム　3日間

	時　間	午　前	午　後
1日目【基礎編】	9:30 ～ 17:00	イントロダクション／基本メトリクスの測定法 ・イントロダクション ・GQM ・工数の測り方 ・欠陥の測り方	プロダクトメトリクス／可視化事例 ・行数の測り方 ・プロダクトメトリクスの定義 ・可視化の事例
2日目【技法編】	9:30 ～ 18:00	統計の基礎 ・統計の基礎講義 ・R、Rコマンダー操作講義 ・基本統計量 ・ヒストグラム、箱ひげ図 ・対数変換	検定 ・検定手法の簡単な解説 ・どのような検定手法があるか、その選択方法 ・Rを使って演習
3日目【技法編】	9:30 ～ 17:00	相関、単回帰分析 ・レビュー欠陥指摘数にかかわるメカニズムの把握 ・工数見積りの妥当性確認	重回帰分析／応用的な回帰分析 ・重回帰分析の講義／演習 ・テスト工程での不具合検出数の予測

回数	開　催　日
1	6月22日(月)～24日(水)

会　場　日科技連・東高円寺ビル
講　師　小池　利和（ヤマハ㈱）
　　小室　睦　（㈱プロセス分析ラボ）
　　野中　誠　（東洋大学）

参加費　【基礎編（第1日目のみ）】　30,000円（一般）／25,000円（会員）
＊税抜き　【技法編（第2、3日目のみ）】57,000円（一般）／50,000円（会員）
　　【基礎編＋技法編（3日間）】　77,250円（一般）／68,250円（会員）

～メトリクスを活用したソフトウェア品質保証の実践や指導、
品質システム構築、改善の推進が可能となります！～

（略称）SQiPメトリクス活用

実践！ソフトウェア品質保証のためのメトリクス活用セミナー

PDU対象コース
13.00PDU
※表紙2★参照

近年、ソフトウェアの利用分野がますます広がり、その品質の社会に対する影響度が増大する中で、ソフトウェアの品質保証を的確に実施し、品質を確保していくためには、適切なメトリクスの設定とそれに基づく品質データの収集と分析が非常に重要になっています。

当セミナーでは、開発の各フェーズにおける実践的なメトリクスの活用について、事例を交えて紹介するとともに演習により、理解の深耕、定着化を図りますので、現場ですぐに実践することができます。メトリクスを活用した品質保証の推進を検討している開発技術者、品質管理技術者および定量的な品質システム構築を目指すプロセス改善推進担当者におすすめします。

コースの特色

- 計画立案から設計・製造・テスト・出荷と、ソフトウェア開発プロジェクトの進行に従った、メトリクスの活用方法（開発計画立案時のデータ活用法、設計段階において最良の設計案を選択する方法、上流工程のレビュー結果に基づく品質把握とテスト工程残存バグ数の予測、適切なテスト実施状況の監視方法、出荷可否判断の方法、弱点モジュールや問題プロセスの見つけ方）を学ぶことができます。
- 習得したメトリクスは、演習により、理解の深耕、定着化を図りますので、現場の中ですぐに実践することができます。
- メトリクスを活用したソフトウェア品質システムの事例を紹介しますので、自社のシステム構築、改善に役立ちます。

こんな方におすすめします

- ソフトウェア開発の中核として活動する、開発技術者、品質管理技術者およびプロセス改善推進担当者

参加者の声

- メトリクス活用の重要性は理解していたが、活用方法や他社での事例等の説明がありよかった。
- 統計的手法を取り入れた品質分析の方法を習得することができた。
- 実際の現場の例が多く盛り込まれていたので、イメージが湧き、わかりやすかった。

カリキュラム　2日間

	時　間	科　　目
1日目	9：30～12：30	1.メトリクスはどのように活用すればいいのか ～いきなり事例！：メトリクスを活用した定量的品質管理の実際～ 1.1　ソフトウェア品質管理に求められることは 1.2　上流工程から一貫した品質管理 1.3　品質管理システムの運用 ・品質管理システムの運用概要　・潜在バグの予測　・品質管理の実施
	13：30～17：00	1.3　品質管理システムの運用（つづき） ・バグ分析の実施　・工程移行と工程後戻り　・潜在バグ予測の見直し　・出荷後品質管理 （演習1）品質管理の進め方 2.ソフトウェア品質保証におけるメトリクスの活用 2.1　メトリクス活用の前に知っておくべきことは ・データの種類と特徴　・データ収集の対象と考慮点　（演習2）データ分析の基本
2日目	9：30～12：30	2.2 メトリクス活用の実際 （ケース1）開発計画立案時　（ケース2）設計時　（ケース3）設計レビュー実施時 （ケース4）テスト工程に入るとき　（演習3）テスト工程で何件バグを検出すればいいの？
	13：30～17：00	2.2 メトリクス活用の実際（つづき） （ケース5）テスト実施時　（演習4）テストは順調に進んでいるのだろうか？ （演習5）テストは終了していいだろうか？　（ケース6）出荷判定 （演習6）出荷可否の判断は？　（演習7）品質の改善状況は？ （演習8）生産性に影響を及ぼしているものは？

回数	開　催　日
1	2020年　7月16日（木）～17日（金）
2	2021年　1月18日（月）～19日（火）

会　場　日科技連・東高円寺ビル
講　師　真野　俊樹（SQA総合研究所）
参加費　53,000円（一般）／46,000円（会員）＊税抜き

～「XDDP」を現場で実践するための「考え方」と「技術」を習得!～

（略称）XDDP

実践！派生開発を成功させるXDDPセミナー

PDU対象コース
13.00PDU
※表紙2★参照

実際の開発現場では「派生開発」が開発の大半を占めています。しかし、従来の「新規開発」と同じ“プロセス”では「派生開発」を合理的に扱うのは困難です。

本セミナーでは、現状の派生開発の問題点を明確にし、清水吉男氏が提唱した派生開発プロセス「XDDP（eXtreme Derivative Development Process）」の基本的な考え方とプロセスを理解します。その上で、「XDDP」の３点セットである「変更要求仕様書」「トレーサビリティ・マトリクス」「変更設計書」の基本を実践的な演習を通して習得します。「新規開発」と同じ取り組み方では「派生開発」は間違いなく混乱します。派生開発で苦労されている方、必見のセミナーです。

コースの特色

- 「派生開発」に取り組むポイントが明確になります。
- XDDPの考え方、プロセスを体系的に理解することができます。
- 講義・演習・発表を通して、効果的かつ効率的に知識、スキルを習得できます。

研修の目的とゴール

講義	目　的：派生開発、XDDPを体系的に学びます。 ゴール：派生開発の特徴と問題を把握し、XDDPが派生開発の問題をどう解決しているか理解します。
演習	目　的：「変更要求仕様書」「トレーサビリティ・マトリクス」「変更設計書」（XDDPの3点セット）の基本スキルを身につけます。 ゴール：実際の開発現場でXDDPの3点セットに取り組むために必要な考え方と基本事項を習得します。

こんな方におすすめします

- 派生開発に関わるすべての技術者*、管理者
- XDDPをより深く理解したい方

＊技術者：開発技術者、品質管理・保証担当者、プロセス改善担当者

カリキュラム　2日間

	時　間	主　要　内　容
1日目	9:30～17:00	1. アイスブレーク 2. 派生開発の現実と問題 派生開発の重要性／混乱する派生開発／派生開発の特徴と問題 3. XDDP の基本 XDDP の特徴（新規開発との違い）／ XDDP トライアングル ２種類のアプローチ（機能追加プロセス／変更プロセス） XDDP における要求仕様書と機能仕様書 4. 機能追加プロセス 機能追加プロセスの目的と特徴 追加機能要求仕様書／ USDM の基本
2日目	9:30～17:00	5. 変更プロセス 変更プロセスの目的と特徴／変更要求仕様書 トレーサビリティ・マトリクス／変更設計書 6. XDDP 実施の注意点 ソースコードの変更／バグの修正箇所の追記 正規文書の作成／テスト仕様書への反映 7. XDDP の評価と効果 ２種類のコード生産性／遅れない仕組み／現場の開発事例 8. まとめ (Q&A)

回数	日　程
1	2020年　7月14日(火)～15日(水)
2	2021年　1月28日(木)～29日(金)

会　場　日科技連・東高円寺ビル

講　師　古畑　慶次（派生開発推進協議会 副代表／㈱デンソー）

参加費　57,000円（一般）／50,000円（会員）＊税抜き

～NECの高品質ソフトウェア開発を支える品質保証術を修得！～

（略称）SQiP品質会計

現場で効果をあげる「ソフトウェア品質会計」の適用方法（初級）

PDU対象コース
7.00PDU

「ソフトウェア品質会計」とは、NECにおいて長年取り組まれているソフトウェア品質管理手法です。全体品質を担保するための基本的な考え方であり、現場・現実・現物を重視している点が大きな特徴です。ソフトウェア品質製造工程までに作り込んだバグを“負債”とし、レビューやテストにより、負債を返済（摘出）して、負債（残バグ）が0になった時点で出荷するという手法を用いています。

各企業のソフトウェア品質向上のため、当セミナーの参加をおすすめいたします。

「ソフトウェア品質会計」

コースの特色

- ソフトウェアの品質管理手法である「品質会計」について、現場での適用を想定した使い方を、講義と演習を通して習得します。
- ソフトウェア開発技術者が、ソフトウェア開発プロジェクトの自担当部分に対して、品質の良し悪しを判断できるようになります。
- 書籍「ソフトウェア品質会計」(誉田直美著、日科技連出版社発行)を配付します。

こんな方におすすめします

- ソフトウェア開発技術者の経験を1～2年程度お持ちの方

カリキュラム　1日

時　間	科　　目	主　要　内　容
9:00～12:30	1. 品質会計とは	・なぜ品質会計は生まれたか ・ソフトウェア品質会計とは ・品質会計を構成する技法とその特徴 ・品質会計の原則 ・品質会計の効果 ・「品質会計」の語源 ・品質会計の技術体系 ・開発プロセスと品質会計技法の適用の関係 ・「設計」と「レビュー」の関係 ・品質会計を適用するために収集すべきデータ
	2. 上工程品質会計の実際	・上工程品質会計とは ・回帰型バグ予測モデル ・上工程品質会計判定表 ・バグの作り込み工程と摘出工程 ・上工程品質会計の流れ ・作り込み工程別のバグ分析
	3.グループ演習：工程移行判定	
13:30～16:30	4.テスト工程品質会計の実際	・テスト工程品質会計とは ・テスト工程品質会計の流れ ・バグ分析と1+n施策 ・テスト終盤の残存課題の分析の考え方 ・バグ傾向分析 ・バグ収束判定
	5.グループ演習：テスト終盤に発生したバグのバグ分析	

備考：本コースは、日本科学技術連盟とNECマネジメントパートナー㈱との共催事業であり、コース実施のためのお客様の個人情報をNECマネジメントパートナー㈱に提供させていただきます。

【重要】本コースは当財団の通常研修とは以下の点で異なりますのでご注意ください。
（1）申込締切日は、8営業日前となります。
（2）キャンセルポリシーは以下の通りとなります。ご確認ください。
①当該教育研修コース開始日を起算日として5営業日前までの受講者キャンセルについては、キャンセル料は一切発生しません。
②①以降のキャンセルについては、参加費の100%のキャンセル料が発生します。
（3）開催通知は、開講の1～2週間前に送付いたします。

回数	開　催　日
1	未定
2	未定

会　場　NECマネジメントパートナー　芝浦研修センター
講　師　誉田　直美（日本電気㈱）
参加費　40,000円（一般／会員）＊税抜き

～テスト技術を体系的に習得！　JSTQB試験対策としても有効です！～

（略称）JSTQB-FL公認

JSTQB認定ソフトウェアテスト技術者 –Foundation Levelトレーニングコース

PDU対象コース
19.25PDU
※表紙2★参照

当セミナーでは、企業や組織の枠を超えたソフトウェアテストの基本的な手法や技法について、国際的に普及しているISTQBのシラバスに基づいて、効率的に学習できます。

ソフトウェアは、今や社会インフラ基盤を構築する重要な存在であり、ソフトウェアに起因する品質事故は、社会問題を引き起こします。ソフトウェアの品質確保は、ソフトウェア産業にとって、社会的責任とも言えます。そのための重要な技術として、ソフトウェアテストがありますが、ソフトウェア技術者全員が、テスト技術を向上させなくては、品質は良くなりません。ソフトウェア業界全体で技術力を向上する手段の一つに、JSTQB（Japan Software Testing Qualifications Board）認定テスト技術者資格制度があります。（15ページ参照）多くの方々の受講をお待ちしています。

＊JSTQBのテスト技術者資格は、ISTQB（International Software Testing Qualifications Board）を通じて、アメリカやイギリス、ドイツなどのISTQB連携のテスト技術者資格と相互認証を行っています。JSTQBと日本科学技術連盟で、パートナーシップを結んで資格認定試験を実施しています。

コースの特色

- ISTQB-FLに基づいたソフトウェアテストの基本的な手法や技法が習得できます。
- ソフトウェアテストの基礎的な用語を理解し、自身のプロジェクトへ適用できるようになります。
- 本コースオリジナルテキストでソフトウェアテスト技術を体系的に習得できます。
- 当セミナーを修了された受講者の方には、1年間有効のJSTQB-FL試験料割引のバウチャーチケットを発行します。

こんな方におすすめします

- ソフトウェアテストの手法や技法の基礎知識を身につけたい方
- ISTQB-FLレベル資格認定取得に取り組まれている方

＊開発者、テスト担当者、品質管理担当者、マネージャなど幅広い層が対象です。また、ユーザー（発注者）の立場として、一般的なソフトウェアテストの知識が必要となっている方も対象となります。

カリキュラム　3日間

	時　間	午　前	午　後
1日目	9:30～18:25	テストとは何か／テストの必要性／テストの7原則／テストプロセス	テストの心理学／ソフトウェア開発ライフサイクルモデル／テストレベル／テストタイプ／メンテナンス（保守）テスト／静的テストの基本／レビュープロセス
2日目	9:30～17:10	テスト技法のカテゴリ／ブラックボックステスト技法	ブラックボックステスト技法（続き）／ホワイトボックステスト技法／経験ベースのテスト技法
3日目	9:30～17:00	テスト組織／テストの計画と見積り	テストのモニタリングとコントロール／構成管理／リスクとテスト／欠陥マネジメント／テストツールの考慮事項／ツールの効果的な使い方

回数	日　程
1	5月12日(火)～14日(木)
2	11月17日(火)～19日(木)

会　場　日科技連・東高円寺ビル
講　師　JSTQB公認トレーニングコースインストラクター
参加費　100,000円（一般）／95,000円（会員）＊税抜き

JSTQB認定テスト技術者資格制度

主催：JSTQB　　試験実施：日本科学技術連盟
※日本科学技術連盟は、主催団体であるJSTQBとパートナーシップを結んでおり、試験の実施組織となっています。

JSTQB（Japan Software Testing Qualifications Board）とは

・日本におけるソフトウェアテスト技術者資格認定の運営組織で、各国のテスト技術者認定組織が参加しているISTQB（International Software Testing Qualifications Board）の加盟組織として2005年4月に認定されています。
・ISTQBの加盟組織の各国団体は資格および教育・訓練組織認証について相互認証を行っています。
・JSTQBが運営するソフトウェアテスト技術者資格は海外でも有効な資格となっています。

自動車、携帯電話、社会インフラ、企業システムなど、我々の身の回りは、ソフトウェアで占められています。すなわち、我々の身体や財産の安全はソフトウェアに委ねられているのです。しかし昨今の状況を鑑みると、ソフトウェアの品質や信頼性、安全性が十分に確保されているとは言えません。ソフトウェアの品質や信頼性、安全性の確保は急務なのです。

そのための重要な技術として、ソフトウェアテストがあります。システムトラブルの報道でしばしば目にする「テスト不足」というキーワードは、テストの工数の不足を示唆しているだけではありません。業界全体でテストの技術力が低迷していることを意味しているのです。我々の身体や財産を守るために、ソフトウェア技術者全員が、テスト技術を向上させなくてはなりません。

業界全体で技術力を向上する手段の一つに、資格認定制度があります。JSTQBでは、日本のソフトウェア技術者がテスト技術を向上させるきっかけとして、テスト技術者の資格認定制度を開始いたしました。

我々の身体や財産を守るために、また日本のソフトウェア業界の技術力向上のために、ぜひ多くのソフトウェア技術者にJSTQBテスト技術者資格を取得していただきたいと考えております。

皆様のチャレンジをお待ちしております。

●JSTQB認定テスト技術者資格制度は、Foundation Level、Advanced Levelの2段階により構成されています。

Foundation Level試験実施要領

◆2020年度実施日◆（予定）	2020年8月 2021年2月
◆試　験　時　間◆	60分
◆開　催　地　域◆	東京、名古屋、大阪、福岡 他（予定）
◆試　験　料◆	20,000円 ＊税抜き（予価）
◆出　題　範　囲◆	シラバスに準じます。

Advanced Level試験実施要領

◆2020年度実施日◆（予定）	2020年8月 2021年2月
◆試　験　時　間◆	180分
◆開　催　地　域◆	東京、大阪 他（予定）
◆試　験　料◆	20,000円 ＊税抜き（予価）
◆出　題　範　囲◆	シラバスに準じます。

試験のご案内は、日科技連のWebサイト（http://juse.or.jp/sqip/）でご確認ください。
試験適用シラバスは、JSTQBのWebサイト（http://jstqb.jp/syllabus.html）でご確認ください。

PDU対象コース
5.50PDU
※表紙2★参照

ご自分の都合により「自宅でも・職場でも」効率的に学習できます

eラーニング　ソフトウェア品質技術者 初級セミナー

「業務の都合または遠方によりセミナーへの参加が難しい」「担当業務以外のため社外セミナーに参加することが難しい」「自己研鑽としてスキルアップしたい」などの要望にお応えするために開設しました。
「ソフトウェア品質知識体系ガイド（SQuBOK Guide)」に基づいたソフトウェア品質技術を体系的に、短期間で効率的に学習できる教材です。
＜レビュー技法→テスト設計技法→品質分析→再発防止＞の一連の学習で、「ソフトウェア品質」の実践スキルを身につけることができます。

【ソフトウェアの品質にお悩みの企業様、ソフトウェア品質の向上を目指したい企業様へ】

本教材は法人も対象に提供しています。
自社で e ラーニングを実施しており、学習管理システム (LMS) をお持ちの場合、SCORM 形式でのコンテンツのみを提供することも可能ですので、お気軽にお問い合わせください。

※Web詳細ページからご利用いただくPCの動作環境を確認いただけます。申込前に確認いただくことをお勧めします。
※本教材はSQuBOKガイド第1版をもとに学習いただきます。

■主な特徴：

・日科技連主催の集合研修「ソフトウェア品質技術者初級セミナー」の内容をｅラーニングで学習できます！
・自宅・職場で手軽に、空いている時間で学べます。
・ソフトウェア品質に関して経験豊富な実務家・専門家が解説します（音声字幕はありません）。
・講座受講 → 確認テストの流れで、理解度を確認しながら学習を進めることができます。
・ソフトウェア品質技術者資格制度（JCSQE）初級対応コースです。

■受講対象：

・ソフトウェア品質に関わるすべての技術者
・プロジェクトの一員として開発業務や品質管理業務を担当したことのある方
・技術者・管理者・品質保証担当として、次のステップをめざす方

■標準学習時間（予定）：約12時間（下記学習カリキュラムの講義時間とは別に、自主学習（復習等）の想定時間を含めています。）

■学習カリキュラム：

■オリエンテーション（約10分）	■第三単元 テスト技法（約90分）
・本セミナーのコンセプトと到達目標 ・組織とプロジェクトの視点の違い	・テスト：概要 ・テストケース設計 ・主要なテスト技法 ・テスト技法の選択と組み合わせ
■第一単元 ソフトウェア品質マネジメント概論（約60分）	■第四単元 品質分析・評価、メトリクス（約60分）
・品質の重要性 ・品質の考え方 ・品質のマネジメント	・定量的管理の意義 ・欠陥を数える ・基本的なプロダクトメトリクス ・基本的なプロセスメトリクス ・いくつかの可視化・分析手法
■第二単元 レビュー技法（約60分）	■第五単元 再発防止～バグ原因分析からのフィードバック～（約60分）
・レビューの概要 ・インスペクション ・「読み方」を工夫する ・レビューの効果を高めるために	・再発防止活動の意義 ・バグ分析とフィードバック ・プロセスの改善

■受講期間：

・3ヵ月
・受講開始日は毎月1日です。3ヵ月間、本教材を受講いただけます。
・例えば、受講開始日が10/1の場合、受講期間は10/1～12/31までとなります。

■受 講 料：1ユーザー 20,000円 ＊税抜き

■画面構成：

～ソフトウェア品質に関する唯一の資格です！～

ソフトウェア品質技術者資格認定制度

JCSQE JUSE Certified Software Quality Engineer

あなたのソフトウェア品質力を認定します！

2008年12月に設けられたソフトウェア品質技術者資格制度（JUSE Certified Software Quality Engineer）は、「すべてのソフトウェア技術者に品質技術を！」をコンセプトに初級、中級、上級の3段階の資格で構成しています。初級資格試験は2019年11月現在、累計で約9,000名の方が受験し、累計合格者数は3,500名を超えました。また中級資格試験は、累計で約1,500名の方が受験し、約200名の方が合格されています。

初級は毎年2回、中級は毎年1回に定期的に実施しており、ソフトウェア品質技術の効果的な修得を目指しています。上級の試験については今後新設していくべく、検討を進めています。

試験対象者は、品質保証エンジニアはもちろん、開発者や技術者、プロジェクトリーダーやマネージャー、保守技術者、教育担当者そして経営者といったすべての方々です。

初級ソフトウェア品質技術者資格試験

◆実 施 日◆ 第24回 6 月13日（土） 10:30～11:30（60分）
第25回 11月14日（土） 10:30～11:30（60分） 〈年2回開催〉

◆開催地域◆ 東京、名古屋、大阪、福岡を中心に各主要都市にて開催

◆試 験 料◆ 10,000円 ＊税抜き（団体割引あり）

◆出題形式◆
- 複数の選択肢から正解を選ぶタイプの問題で、40問出題されます。
- 試験時間は60分（休憩なし・途中退室不可）です。
- 合格ラインは70%程度。
- 出題範囲は初級シラバスに準拠しています。
- シラバス内には、学習目標/知識のレベルを設けております。

中級ソフトウェア品質技術者　資格試験

◆実 施 日◆ 第11回 11月14日（土） 13:30～15:30（120分）〈年1回開催〉

◆開催地域◆ 東京、大阪を中心に各主要都市にて開催

◆試 験 料◆ 15,000円 ＊税抜き（団体割引あり）

◆出題形式◆
- 選択式25問、記述式3種類の問題形式（下記）で17問、合計42問出題されます。
- 試験時間は120分（休憩なし・途中退室不可）です。
- 合格ラインは70%程度（選択式、記述式ともに）。
- 出題範囲は中級シラバスに準拠しています。
  ただし、選択式はレベル2～3で出題されます。
- シラバス内には、学習目標/知識のレベルを設けております。

問題の種類		問題の説明	出題数（予定）
選択式		複数の選択肢から正解を選ぶ	25問
記述式	（穴埋め）	文章中の用語の穴埋め	10問
	（説　明）	用語についての定義や活用方法の説明	5問
	（解　説）	あるテーマについてその理由や留意点などの考察を記述	2問

※本資格は「IT スキル標準（ITSS）のキャリアフレームワークと認定試験・資格とのマップ」に初級（レベル 2）、中級（レベル 4）ともに取り上げられています。

※団体割引について：一定条件を満たすと割引が適用されます。
「初級」「中級」「初級・中級同時受験」それぞれ区分ごとのお申込で、同一窓口から一括して10名以上の申込があり、かつ、試験料も一括でお振込みの場合、当該試験に限り、1名あたりの試験料が10%割引になります（「初級」「中級」「初級・中級同時受験」を合計した人数では適用されません）。

詳細・最新情報についてはWebサイトよりご確認ください。〉〉〉https://www.juse.jp/jcsqe/

第36年度

ソフトウェア品質管理研究会
〈SQiP研究会〉

毎年 100 名規模のソフトウェア技術者が参加！異業種交流で実践力強化！
ソフトウェア開発に関連した教育と事例研究を行うことを目的として、例年5月～2月の1年サイクルで開催しています。「ソフトウェア開発の現場を活性化させたい」、「ソフトウェアの品質がなかなか安定しない」などの問題点について、第一線で活躍中の指導講師が提案・助言した解決の糸口を互いに議論することで、問題を発見し、新たな視点を得て、品質技術の実践を通じて、問題解決スキルをマスターすることができます。また、「ソフトウェア品質シンポジウム」（2 日間）に無料で参加することができます。

午前 10:00～12:00	**〈特別講義〉** 関心度や重要度が高いソフトウェア品質に関するテーマのそれぞれの専門家による講義
午後 13:00～18:00	**〈分 科 会〉** レベルにより、「研究、演習、基礎、実践」4種類のコースを設定、以下の11テーマに分かれ、指導講師と共に、議論・学習・研究を行います。 ［研究コース］ ・ソフトウェアプロセス評価・改善 ・ソフトウェアレビュー ・ソフトウェアテスト ・アジャイルと品質 ・人工知能とソフトウェア品質[New] ・セーフティ＆セキュリティ[Renewal] ［演習コース］ ・ソフトウェア工学の基礎 ・ソフトウェアメトリクス[Renewal] ・UX(User Experience) ［基礎コース］ ・ソフトウェア品質保証の基礎 ［実践コース］ ・品質技術の実践 ※分科会テーマは変更になる場合があります。

■活動期間：2020 年 4 月～2021 年 2 月（例会全 9 回）　■会場：日科技連・東高円寺ビル
※ 2020年度は「東京オリンピック」開催を考慮し、4月開講となります。
■参 加 費：210,000 円（一般）／ 190,000 円（会員）＊税抜き
※ 継続参加企業様の特典（サポート価格）をご用意しています。　200,000円（一般）／180,000円（会員）＊税抜き
※ 研究会の詳細は「専用パンフレット」をご請求ください。

第39回

ソフトウェア品質シンポジウム2020
〈SQiPS2020〉

本シンポジウムは、ソフトウェア品質に関わる全ての方々が一堂に会し、現場で役立つ実践的な技術や経験、ノウハウ、研究成果を発表し意見交換を行う場です。開発者、マネージャー、ユーザー企業、QA担当者、研究者といった様々な立場、組込み系やエンタープライズ系といった様々なドメインの方々がオープンな立場で品質向上のために真摯に議論し、相互研鑽や人的交流を行うことを目的としています。

2020年度開催概要（予定）
■期　間：2020年9月9日（水）～11日（金）
※ 併設チュートリアル（9日）は別途参加費10,000円（本会議参加の場合は5,000円）＊税抜き
※ 早期割引、団体割引もございます。
■会　場：東洋大学・白山キャンパス
■プログラム概要：基調講演、特別講演、経験論文発表、経験事例発表、企画セッション、パネルディスカッションなど

参加費		
	一　　般	38,000円
	（早期申込み期間	38,000円→29,800円）＊税抜き
	日科技連賛助会員 （後援・協賛学会会員）	36,000円
	（早期申込み期間	36,000円→28,230円）＊税抜き

最新情報はこちらから！
http://www.juse.jp/sqip/symposium/

ODC分析研究会

日本の高い品質のものづくり文化を根底から支える品質管理や品質保証の分野において、検証結果の欠陥分析は重要な技術テーマです。旧来より品質管理において「欠陥」は、除去する対象だけでなく、品質の向上を実現する種として重要視されています。しかし欠陥分析は、日本の企業群や組織でさまざまな取り組みが行われている結果、統一された分析技法の定着を阻害しています。分析技法が標準化されていないことで、「欠陥」そのものでなく欠陥の除去技術や製品の品質評価方法などが組織の壁を越えて議論され難くなっています。これらを解決するためには、欠陥分析に関係する用語や欠陥を分類する属性を統一し、共通の言語で品質を語ることができる場を提供することが必要です。「ODC （Orthogonal Defect Classification、直交欠陥分類）分析研究会」は、企業や組織の枠組みを超えて欠陥分析の議論や研究を行い、その成果を、ものづくりを行う企業に提供し、日本の産業界の発展に貢献して参ります。活動の詳細はWebで随時ご案内しております。

■理念

欠陥分析がものづくりの品質向上に寄与するものと信じて、その研究成果がものづくりにたずさわる企業や組織に対して、社会貢献することを目指します。

■参加対象

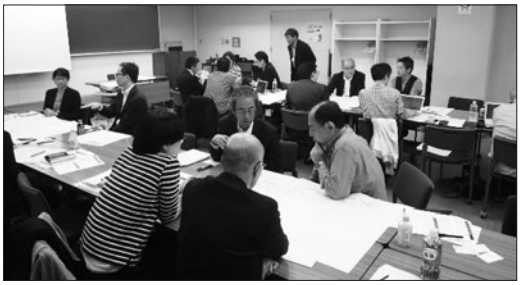
・欠陥分析を用いた品質改善、プロセス改善でお悩みの方
・ODC分析を基礎からの理解を希望し、業務に適用を実施または検討している方
・業務として参加できる方（研究会は平日就業日時間内で実施しますが、必須ではありません。）

■参加条件

※下記「分析パターン」は、ODC分析研究会として公開します。

1）ODC分析に必要な欠陥情報を持ち寄れる方（下記の注意事項も参照してください。）
2）ODC分析研究成果として欠陥パターンを提供していただける方

注意事項：欠陥情報は、機密事項については必要ありません。
ODC分析を実施でき、ODC分析パターンを抽出できる要素のみ提供していただきます。



活動の詳細はこちらから 〉〉〉 http://www.juse.or.jp/sqip/odc_workshop/

SQiP SIG(Special Interest Group)のご案内

SQiPコミュニティのメンバーの有志により、ソフトウェア品質に関連するSIG活動を行う仕組みです。SQiPコミュニティのメンバーであれば、どなたでもSIGを設立できます。この活動のメリットとして、以下のことが考えられます。

・活動計画や活動内容をSQiP Webに掲載し、広くメンバーを募集できます。
・活動成果を発表する機会が得られます。
・必要であれば、専用のメーリングリストを設置・利用できます。
・会合の場として日科技連の会議室を利用できます。（条件あり）

新たにSIGを設立する方法は以下の通りです。

1．「SIG活動計画」をまとめ、SIGサポートグループ（SIGSG）にお送りください。
2．お送りいただいた活動計画の内容をSIGSGで確認し、その結果をご連絡いたします。
3．SIG設立の条件は以下のとおりです。
・テーマがソフトウェア開発・管理に関連するものであること
・活動内容、活動成果に公益性があること
・活動成果は一般に公開すること（SQiP SIG Webサイトに公開することを基本とします）
・SIGのメンバーは、リーダーを含んで3名以上であること
・SIGのリーダーおよびメンバーは、SQiPコミュニティに参加していること
4．SIGの活動期間は、原則1年間です。ただし、継続を妨げるものではありませんので、息の長い活動も、もちろん可能です。

◆お問い合わせ先は「SQiP SIG」のお世話係のSIGサポートグループまで。
新たなSIG設立の受け付け、全体の取りまとめ、SQiP SIGのよろず相談窓口をしています。
SIGサポートグループ（SIGSG）　：　sqip-sig@juse.or.jp

ソフトウェア品質知識体系ガイド
−SQuBOK (Software Quality Body of Knowledge) ガイド−

SQuBOKとは、ソフトウェア品質に関する暗黙知を形式知化し、最新のテーマを整理・体系化したもので、ソフトウェア品質技術の認知度向上やソフトウェア品質プロセスの確立をめざす組織を支援する、日本発の知識体系ガイド(BOK)です。

ソフトウェア品質体系がカテゴリ、知識領域ごとに樹形図として描かれており、総覧的に把握することができます。また、国内で蓄積された知識だけにとどまらず、国際規格や国際的なプラクティスなども含まれています。

このガイドは、2007年に第1版、2014年に第2版を発行しました。ソフトウェアの利用環境や果たす役割は進化し、そのライフサイクルは大きく変わりました。このような変化を踏まえ、「ソフトウェア品質技術に与える影響」の観点で、改定と追加を行い、2020年秋に第3版を発行すべく、現在、執筆活動を進めています。

SQuBOKは、SQiPの実践的研究、普及事業の支柱として位置づけています。SQuBOKの活用により、各企業・団体等のソフトウェア品質の価値向上の一助となれば幸いです。

ソフトウェア品質知識体系ガイド
−SQuBOK Guide−　第2版

・著者：SQuBOK策定部会編
・定価：本体4,000円＋税
・B5変　424頁
・ISBN 978-4-274-50522-5

・SQuBOK電子書籍は「Googleブックス」にて販売しています。

※SQuBOKは日本科学技術連盟の登録商標です。

SQuBOKに関する最新情報はこちら >>> http://www.juse.or.jp/sqip/squbok/

SQuBOK Review

SQuBOK 第1版の発行から13年、この間にもソフトウェア・システムの社会における存在感は増し、クラウドやIoT、AIなどソフトウェア・システムを応用した社会基盤が急速に確立されつつあります。ソフトウェア品質に関する知識や技術の形式知化も、時代の流れに遅れをとるわけにはいきません。そこでSQuBOK 第3版発行に向けて、SQiPの意図を反映したコンテンツの拡充のために、研究チームを発足させました。

SQuBOK Reviewは、研究チームの成果を発信するものであり、2016年から毎年発行しております。

SQuBOK Reviewの詳細、ダウンロードはこちら
http://www.juse.or.jp/sqip/squbok/squbok_review.html

『SQiPコミュニティ』へのお誘い

ソフトウェア開発において、自社のソフトウェアやサービスの品質を如何に向上させていくべきかについて悩み、日々考え、情報を収集し、工夫している方々がたくさんいます。しかし、悩みを共有し議論したり、クチコミで情報を交換したり、技術や工夫を教え合ったりする場が少ないのも事実で、ソフトウェアの品質全体について気軽に交流できる場はほとんどありません。

「SQiPコミュニティ」は、ソフトウェアの品質全般について、悩みを共有し議論したり、クチコミで情報を交換したり、技術や工夫を教え合ったりする無償で気軽な場です。主な活動はメーリングリストによるメール上となりますが、希望する方がいればオフラインで勉強会を開催することもあります。ソフトウェアの品質向上に興味がある方なら、どなたでもご参加できます。実名でも匿名でも構いません（メーリングリストには公表しませんが、事務局には実名を登録していただきます）。右記の情報とともに「SQiPコミュニティ参加希望」という件名で事務局（sqip@juse.or.jp）までEメールでお申し込みください。

皆さんのご参加をお待ちしております。一緒にソフトウェア品質の悩みを解消していきましょう。

Eメールへのご記入内容
- 名前
- 所属先（部署名・研究室名まで）
- 所属住所／電話番号
- 匿名希望か否か
- 匿名希望の場合はニックネーム
- Eメールアドレス

ソフトウェア品質保証部長の会

ソフトウェアが私たちの生活の中の頭脳として、製品として必要不可欠なものになっている昨今、その品質の重要性は高まるばかりです。それに伴い、ソフトウェア品質保証部門の担う役割と責任は、増々大きくなっています。また、ソフトウェアの開発期間はその必要性とともにますます短縮され、多くの機能が要求されるようになってきました。このような状況のもと、様々なプロジェクトに対する最適な品質保証活動や、組織全体の中長期的な品質保証戦略はどうあるべきか、ソフトウェア品質保証部門の長は問題意識をもちながらも、日々の仕事に追われてしまい、なかなか根本的な解決を見いだせないという声をよく耳にします。

そこでSQiPでは2009年11月よりソフトウェア品質保証部門の長による「ソフトウェア品質保証部長の会」を開催し、識者による講演やグループディスカッションを通して、品質保証戦略の立案や組織体制の構築、品質保証業務の改善、効果的な品質保証活動の事例の作成、開発現場への普及推進、これからの品質保証の在り方などについて議論してきました。

そして、その成果を「成果発表会」や「ソフトウェア品質シンポジウム」等で外部に向けて広く発信しています。

現在、これまでの活動の成果を10年史としてまとめ、公開をしております。ぜひご覧いただき、社内でご活用ください！

▲第11期キックオフの様子

■コンセプト

ソフトウェア品質保証において部門長としての課題や問題、悩みの助けとなるべく、品質保証戦略の立案や組織体制の構築、品質保証業務の改善、効果的な品質保証活動の事例の作成、開発現場への普及推進などについて、実践的な議論を行い、事例を蓄積し、成果をまとめていきます。

【ミッション】

・課題の共有と解決策の模索及び成果の展開を通してソフトウェア品質保証活動のレベルアップ及び価値の向上を図る。
・ソフトウェア品質保証の本質を明らかにし、ソフトウェア品質保証部門のあり方、技術課題、人材育成の改善や深化を図る。
・ソフトウェア品質保証において技術革新の先導役、担い手となる。

【ビジョン】

・世界に誇れる日本のソフトウェア品質保証技術（管理・プロセス・エンジニアリング）の進化を図る。

参加者のメリット

◆品質保証活動に関する部門長レベルの技術交流や情報交換ができます。
◆様々な業種の品質保証プロフェッショナルと社外ネットワークが作れます。
◆技術や課題、価値観を語り合い、競い合う場として活用することができます。
◆豪華な講師陣による講演や参加者による事例発表もあります。

活動の詳細・成果資料はこちらから 〉〉〉http://www.juse.or.jp/sqip/community/bucyo/

アジアソフトウェア品質カンファレンス（ASQN：Asian Software Quality Network）

SQiPの国際活動の一つとして、アジア各国が連携しソフトウェア品質向上に努め、結束を固め、国際競争力を強化するために、アジアにおけるネットワークづくりを構築すべく、ASQN（Asian Software Quality Network）を設立しました。2013年に第1回をクアラルンプール（マレーシア）で開催したのを皮切りに、これまで2014年に第2回を上海（中国）、2015年に第3回を東京（日本）、2016年に第4回を済州島（韓国）、2017年に第5回をクアラルンプール（マレーシア）、2018年に第6回を北京（中国）で開催し、2019年に第7回を東京（日本）で開催し、2020年の第8回はタイで開催を予定しています。

今後も毎年、アジア地域で行われるイベントにジョイントするなどし、アジアのネットワークづくりをしていきます。

活動の詳細はこちらから>>>http://www.juse.or.jp/sqip/international_conference/asqn/

SQiPの情報発信

―SQiPでは、様々な情報をポータルサイトを基点に発信しています―

SQiPポータルサイト　http://www.juse.or.jp/sqip/

実践的で実証的なソフトウェア品質技術・施策を目的として、「SQiP（Software Quality Profession）」。ソフトウェア品質の最新動向やSQiPの活動内容を発信しています。

トップページ

「SQiPとは」

SQiPライブラリー　http://www.juse.jp/sqip/library/

SQiPの研究会やシンポジウムなどの活動において、得ることのできた論文等の成果を一般公開しています。「SQuBOK分類検索」、「フリーワード検索」で自在に検索できます。ソフトウェア品質管理活動のヒントになること間違いなし！SQiPの財産ここにあり！。

トップページ

「SQuBOK分類検索」

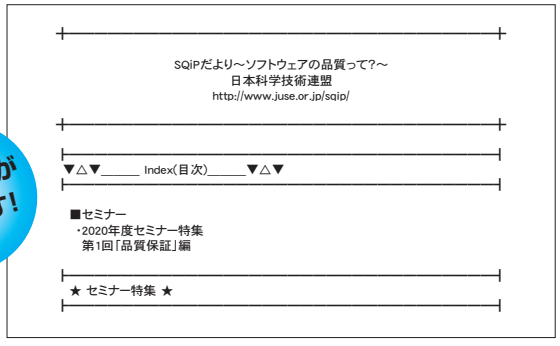
SQiPメールニュース（登録無料）

ご希望の方はWebから申込みください。
http://www.juse.or.jp/sqip/mailnews/sqip/

- ●ソフトウェア品質の最新動向
- ●セミナー・シンポジウム情報
- ●他社の動向
- ●コミュニティ情報

など有益情報が満載！

最新情報が満載です！



社内セミナー・講演会のご案内

～外部講師（講師派遣）により“人材育成”のお手伝いをします！～

日科技連が開催している定例セミナーの内容を社内セミナーとしてご提供します。また、お客様からのご要望に応じて、定例セミナーの内容を組み替えて、より一層効果が高められる教育内容をご提供します。
組織や職場の様々な問題・課題解決、人材育成、現場力強化にお役立てください。

社内セミナー

本ガイドに掲載の定例セミナーの他、ご要望（ねらい・目的）に応じてセミナーを組み合わせて社内セミナーを企画・実施します。

①定例セミナーの内容を組み替えた教育内容で実施できます！
②開催日程を御社のご希望に合わせて実施できるため、多数の社員を効率的・効果的に教育することが可能です！
③効率的実施により、時間的・経費的な教育コストを低減することが可能です！
④問題の共通認識や、今後の取組み方や情報を共有化でき、セミナー後はスムーズに自社で抱える問題・課題を解決することが期待できます！

講　演　会

社内の品質管理大会・改善発表会・各種イベント等、定例行事での講演会に講演者を派遣して実施します。

外部講師のメリット

当該分野の知識・経験豊富な講師を派遣して第三者の視点で人材育成が可能です。

お問合せ先

ソフトウェア品質をはじめ、品質管理全般、品質管理手法、QCサークル、信頼性、多変量解析、実験計画など

営業・企画グループ　TEL：03-5378-1225　FAX：03-5378-1227　E-mail：jusekensyu@juse.or.jp

社内セミナー等に関するご相談、ご質問、お見積もりのご依頼など、お気軽にお問合わせください。
詳細案内、お問い合わせはこちらから＞＞＞http://www.juse.or.jp/lecturer/inquiry/

日科技連賛助会員　入会のおすすめ

★本セミナーガイド掲載の事業を会員料金でご参加いただけます★

日科技連では、企業・組織の品質経営の充実のために、教育・研修を中心にした事業を積極的に展開しております。賛助会員にご入会いただくと、セミナー等の事業に会員料金で参加できる他、以下の特典があります。

主な会員特典

- セミナー等各種事業へ会員料金にてご参加いただけます。
- セミナーを年間予約でき、計画的な人材教育が実現できます。
- 各分野の専門家による月例講演会に無料で参加できます。
- 機関誌『クオリティ・クラブ』をお届けします。
- 教育担当者様へ各種事業のご案内、最新情報を定期的にお届けします。

賛助会員・会費

＊入会金ならびに年会費は消費税の対象外です。
＊会計事業年度は、4月から翌年3月までです。

入会金　10,000 円
年会費　50,000 円／1口

機関誌
『クオリティ・クラブ』

月例講演会

入会のお申し込み・お問合せ先

一般財団法人日本科学技術連盟　広報・国際グループ
〒163-0704　東京都新宿区西新宿2-7-1　小田急第一生命ビル4階
TEL: 03-5990-5846　FAX: 03-3344-3022
E-mail: jusepr@juse.or.jp　http://www.juse.or.jp/support_member/

お申込みのご案内

■Webページ（セミナーサイト）　http://www.juse.or.jp/src/seminar/

●セミナー・事業検索からキーワード検索またはカテゴリーを選択し、ご希望のセミナーをお選びください。
●各セミナー詳細ページの日程表から、申込みフォームへアクセスできます。
●申込みフォームからお申込み後、セミナー受付より自動返信メールが届きます。

■お申込み受付から受講まで

●開催の約１ヵ月～３週間前に「開催のご案内」「参加券・請求書」などの必要書類を郵送いたします。
●お支払いについての詳細は、請求書に記載しておりますが、原則として請求書発行後２ヵ月以内に請求書に記載の指定口座へお振込みください。
●受講当日（初日）は参加券をご持参いただき、受付にてご提出ください。
●セミナーによっては同業他社からのご参加はお断りする場合があります。
●天災地変や伝染病の流行、研修会場・輸送等の機関のサービスの停止、公官庁の指示等、当財団が管理できない事由により、研修内容の一部　変更および中止のために生じたお客様の損害については、当財団では責任を負いかねます。
●お申込み、参加にあたっての注意事項はwebページにてご案内しております。
http://www.juse.or.jp/src/seminar/detail/page/jusesanka

■キャンセルの取扱いとお願い

セミナー・研究会等にお申込み後、止むを得ない事由により、参加者の都合が悪くなった場合には、恐縮でございますが、できるだけ代理の方のご参加をお願いします（開催途中の参加者変更は不可）。参加をキャンセルする場合には、セミナー受付に電話、EメールまたはFAXにて事前にご連絡をお願いします。その際、ご連絡の日にちにより、次のキャンセル料をご負担いただきます。

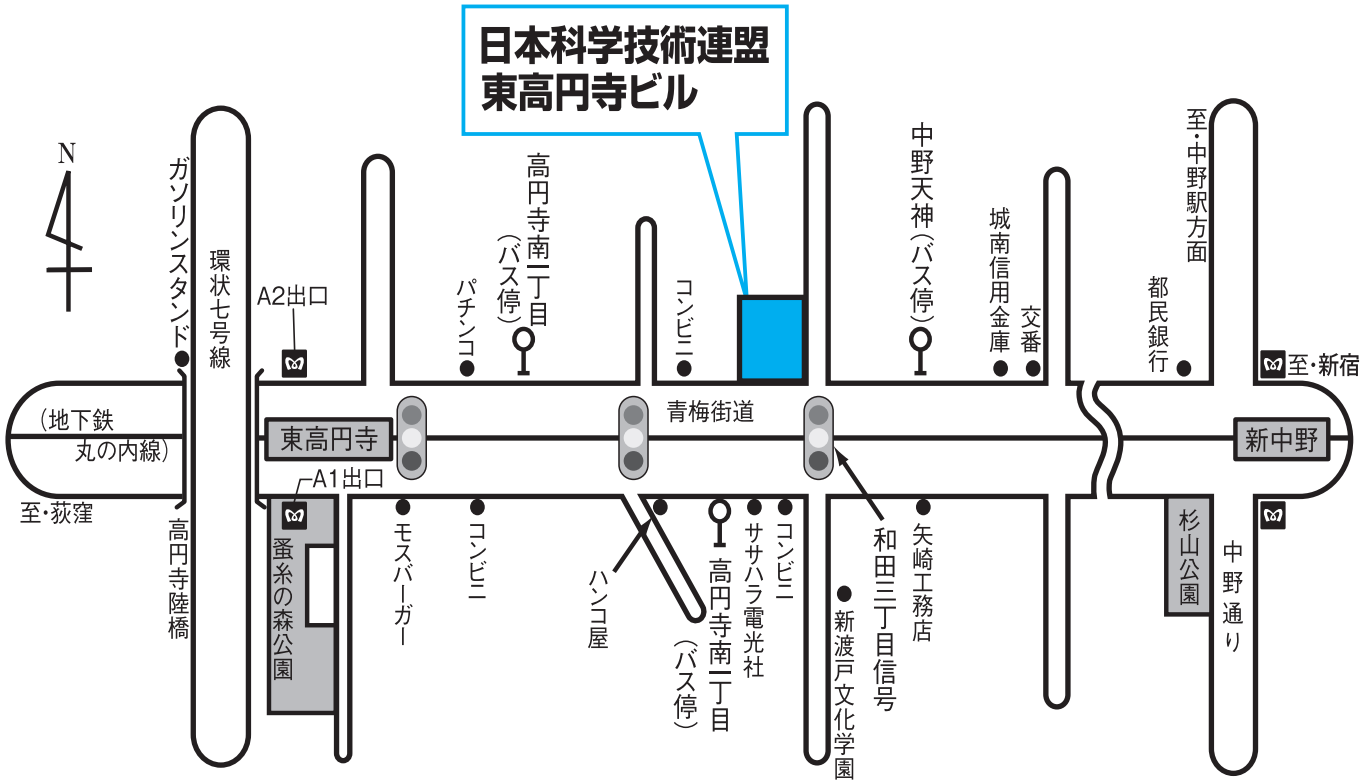
【キャンセル料】
・セミナー開催日の7営業日前～ 2営業日前のキャンセル ― 参加費の20%
・セミナー開催日の1営業日前17：00までのキャンセル ― 参加費の50%
・セミナー開催日の1営業日前17：00以降のキャンセルまたは事前のご連絡がなかった場合 ― 参加費の100%
＊○営業日前とは、土日祝祭日・日科技連休業日を除いた日数のことです。

■セミナーの振替受講について

お申込みいただいたセミナーに、参加者が受講できず、また代理の方がいない場合は、年度内に開催される同じセミナーに「振替受講」ができます（複数回開催するセミナーのみ）。「振替受講」は、一度目は無料ですが、二度目以降の場合には、通常の参加費に加え、**参加費の10%を振替受講手数料**として申し受けますので予めご了承ください。
※振替受講を希望される場合には、必ずセミナー開催初日の7営業日前17時までに、セミナー受付に電話、EメールまたはFAXにてご連絡ください。

■セミナーのお申込み・キャンセル・振替受講のお問合せ先

一般財団法人日本科学技術連盟　業務管理センター　広報・国際グループ　セミナー受付
〒163-0704　東京都新宿区西新宿2-7-1　小田急第一生命ビル4階
TEL 03-5990-5849　FAX 03-3344-3022　E-mail：regist@juse.or.jp

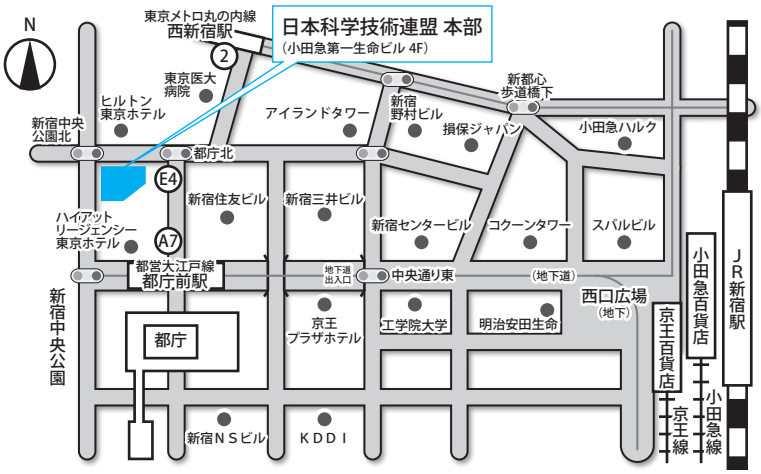


東高円寺ビル

166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL 03(5378)9813　FAX 03(5378)9842

東京メトロ丸の内線「東高円寺」駅下車　徒歩５分



本　部

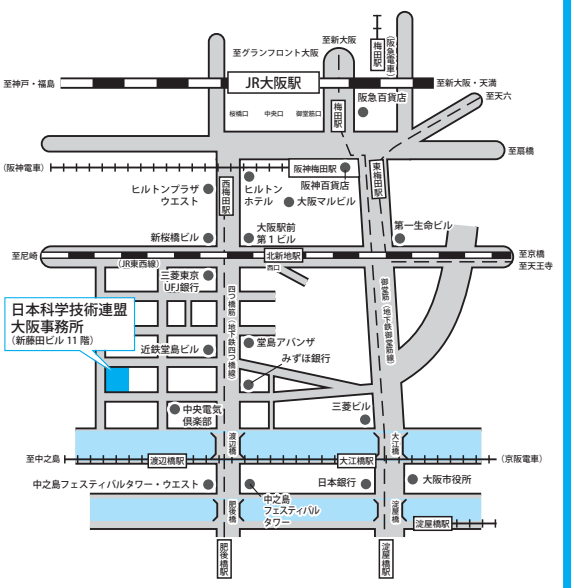
163-0704 東京都新宿区西新宿2丁目7番1号 小田急第一生命ビル4F

TEL 03（5990）5284　FAX 03（3344）3022

都営大江戸線「都庁前」駅下車　A7 出口より徒歩３分

東京メトロ丸の内線「西新宿」駅下車　２番出口より徒歩５分

「新宿」駅下車　西口より地下道で徒歩 10 分



大阪事務所

530-0003 大阪府大阪市北区堂島2-4-27 新藤田ビル11F

TEL 06（6341）4627　FAX 06（6341）4615

JR「大阪」駅（桜橋口）下車　南へ徒歩 10 分

JR「北新地」駅（西口）下車　南へ徒歩７分

地下鉄「梅田」駅下車　南西へ徒歩 15 分

SQiP Software Quality Profession

品質にしっかりと取り組めば、組織は賢く、強く、幸せになれる！

SQiPとは、

**実践的で実証的なソフトウェア品質技術・施策の研究・普及を目的として、
日本科学技術連盟の下に設置されたソフトウェア品質向上のための推進組織です。
1980年にその前身の活動を開始し、
2007年よりSQiP（Software Quality Profession）へと名称を変更しました。
SQiPは、「ソフトウェア品質を良くしたい」という思いを共有する方なら、
誰でも参加できるオープンな場です。**

SQiP委員長
野中　誠 氏（東洋大学）

SQiPのミッション

- ソフトウェア技術職を自ら誇れる職業として位置づけ、
- 実践的で実証的なソフトウェア品質技術・施策を体系化し、
- これを普及させることにより、
- 日本の、ひいては世界のソフトウェア産業の健全な発展に寄与し、
- 品質の良いソフトウェアによってもたらされる安心・安全な社会の実現に貢献します。

SQiPの活動方針

- ソフトウェア品質の重要性を訴求
- 実践的で実証的なソフトウェア品質技術・施策の研究・体系化と普及推進
- 日本のソフトウェア産業の健全な発展に貢献
- グローバルな視野での活動、国際協力の推進
- 新しい課題へのチャレンジ

SQiPの歴史 ～40年にわたり、ソフトウェア品質向上のための取り組みを行っています～

1980年、日科技連では、日本におけるソフトウェア製品の品質向上と効果的開発の方法論の確立を目指して、「ソフトウェア生産管理研究委員会」（SPC, Software Production Control）を設置しました。 以来、「TQMとソフトウェア工学の結婚」を標榜し、日本的品質管理をソフトウェア生産に適用するための調査・研究・普及を行ってまいりました。

2007年に、この活動が「ソフトウェア品質に関する活動」であると分かりやすくすることと、ソフトウェア技術職という専門的職業の矜持を大事にしたいという思いから、SQiP(Software Quality Profession)に改称しました。

1980年の設立当初は、メインフレーマーで培われたソフトウェア品質技術・施策を議論する場でしたが、現在はソフトウェア産業に関わるすべての方々が議論できる場になっています。これらの議論を通じて得られた知見をSQuBOK（ソフトウェア品質知識体系ガイド）として体系化し、これを基本とした資格制度の創設、セミナーの開発を行い、誰もがソフトウェア品質を学べる環境を作っています。引き続き、アジア各国と手をつなぎ、日本のソフトウェア品質技術・施策の良さを世界へ発信してまいります。

お問い合せは

一般財団法人 日本科学技術連盟 ソフトウェア品質（SQiP）担当
〒166-0003　東京都杉並区高円寺南1-2-1　TEL：03-5378-9813　FAX：03-5378-9842
E-mail：sqip@juse.or.jp　http://www.juse.or.jp/sqip/

©2020 UNION OF JAPANESE SCIENTISTS AND ENGINEERS(JUSE)　20013500NPC　第1版